

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな えひめけんりつうわじまみなみちゅうとうきょういくがっこう	②所在都道府県	愛媛県						
27～31	①学校名 愛媛県立宇和島南中等教育学校								
③対象学科名	④対象とする生徒数						⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	県立中等教育学校 1学年4クラス 定員160名 教職員87名	
中等(前期課程)	160	160	157				477		
中等(後期)普通科				162	155	158	475		
⑥研究開発構想名	宇和島のうみ・やまから世界を考える								
⑦研究開発の概要	SGアクションとグローバル・スキルを効果的に融合させ、国際人としてのコミュニケーション力を高めるとともに、自ら疑問を抱き、考え、判断・行動し、社会問題を解決することができるグローバル・リーダー教育の研究・開発を、生徒全員を対象に実施する。								
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	(1) 目的・目標						ローカルに対する理解と愛郷心を基盤として、地域の課題を解決し、グローバル化していく世界の中で地域の持続的発展のために実践的な行動の取れるリーダーと、探究活動から得た知識、技能、実践力により、自ら考え、判断・行動し、グローバル社会の課題を解決することのできるグローバル・リーダーを育成する。	
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説						ア 現状の分析 中等教育学校として10年が経ち、進学校としての一定の評価は得ている。勤勉、真面目で何事にも一生懸命に取り組む生徒が多い。しかしながら、流動的で変化の速い、正解の見えないグローバル化の進行する現代社会において、グローバル・リーダーとして活躍できる人材がどれほど育っているかは未知数である。 イ 研究開発の仮説 そのような学校の現状、生徒の意識を変え、備わっている資質を生かし、更に発展させるためにSGH事業は有効であると考え。SGHを導入することにより、地域の実態への理解と世界の現状に対する興味・関心を持ち、世界をフィールドに生きていく意志と意欲を育成することが期待できる。具体的には、世界的な視点で物事を考えるSGアクションと国際人としての行動の基礎となるグローバル・スキルを一体的に運用することにより、自ら考え、自ら行動することができるようになると考えられる。 開発したい力 (SGアクション) (ア) ローカルに対する理解と愛情 (イ) グローバルな視点からのローカルの俯瞰 (ウ) 異文化理解力・共感力 (エ) チャレンジ精神・困難に耐える力 (オ) 世界に売り込む企画立案力・交渉力 (カ) 論理的思考力・分析力 開発したい力 (グローバル・スキル) (ア) 英語学習に対する積極性 (イ) 世界に通用する語学力・表現力 (ウ) グローバル社会への発信力	
		(3) 成果の普及						ア 一般市民対象の成果発表会を実施する。 イ 学校ホームページに掲載するとともに、小学生体験入学で児童とその保護者に実践報告と研究成果を発表する。 ウ 英語版ホームページを拡充し、海外及び海外提携校へ発信する。 エ SSH校と合同で行う「愛媛スーパーハイスクールコンソーシアム」で研究	

		<p>成果を発表する。  オ 宇和島市内3校によるグローバル・ミーティングで成果発表を行う。  カ 愛媛県高等学校教育研究大会及び各教科部会において成果発表を行う。  キ 各ステージでの研究成果を全校集会で発表する。  ク 結果報告書を作成し、他校への配布を行う。  ケ 地元CATVなどマスコミの協力を得て、成果発表会の様子を放映する。</p>
⑧-2 課題研究		<p>(1) 課題研究内容  大学、行政、地元企業との連携の下、地域の基幹産業である農業・水産業について研究する。地元宇和島の農業・水産業の現状を学び、地元産品を海外へ輸出する際の問題点を理解するとともにその解決方法を考え、新たな世界市場への販売戦略を提案する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価  ア SGアクションにおいて、地元企業や大学での研修等を実施するとともにグローバルな問題をテーマとした講演会を実施する。  イ 海外展開する地元企業や愛媛県の「愛のくにえひめ営業本部」を通じて、東南アジア等の海外の現状を視察し、農業・水産業の海外展開のためのアイデアを持ち帰り、以後の研究につなげていく。  ウ 県教育委員会が主催し、SGH指定校及びSSH指定校が合同で成果発表を行う「愛媛スーパーハイスクールコンソーシアム」に参加する。  エ 研究開発の目的の達成状況を、レポートやアンケート調査等を通して検証評価する。  オ 運営指導委員会による評価を実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等  ア 中等4年生は、「社会と情報」を1単位減じるとともに、「総合的な学習の時間」を履修せず、その内容を学校設定科目「SGアクションⅠ」（2単位）で代替する。  イ 中等5年スーパーグローバル類型生徒は、「保健」「総合的な学習の時間」を履修せず、その内容を学校設定科目「SGアクションⅡ」（2単位）で代替する。人文総合・自然科学類型生徒は、「総合的な学習の時間」を履修せず、「SGアクションⅡ」（1単位）で代替する。  ウ 中等6年生は、学校設定科目「総合的な学習の時間」を履修せず、「SGアクションⅢ」（1単位）で代替する。</p>
⑧-3 上記以外		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価  ア グローバル社会で活躍する国際人として求められる、知的創造の技術や表現力・英語でのコミュニケーション力等の育成を図ることを目標とした、学校設定科目グローバル・スキルⅠ・Ⅱを実施する。  イ 研究開発の目的の達成状況を、校外コンテストに参加した人数や各種英語検定の合格者数等で検証評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等  ア 第4学年の全生徒は、「コミュニケーション英語Ⅰ」を1単位減じて、「グローバル・スキルⅠ」（1単位）を履修する。  イ 第5学年のスーパーグローバル類型は、「コミュニケーション英語Ⅱ」を1単位減じて、「グローバル・スキルⅡ」（1単位）を履修する。  ウ 第6学年のスーパーグローバル文科系類型は、「グローバル・スキルⅢ」（3単位）を「数学研究Ⅱ」（3単位）との選択で履修し、スーパーグローバル理科系類型は、「グローバル・スキルⅢ」（2単位）を「地理」（2単位）との選択で履修する。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法  ア 国際交流室で、海外にある提携校や大学の研究室とテレビ会議システムを通じて交流する。  イ 修学旅行でオーストラリアを訪問し、現地の人々や企業との交流により、異文化体験や英語を活用した研修を実施する。</p>
⑨その他 特記事項		特記事項なし

ふりがな	えひめけんりつうわじまみなみちゅうとうきょういっくがっこう	指定期間	27～31
学校名	愛媛県立宇和島南中等教育学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	336人
	SGH対象生徒以外:	15人	20人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 4年生で50%、5・6年生で80%にすることを旨す。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	80人
	SGH対象生徒以外:	37人	48人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 例年、5年生の海外修学旅行参加者が40人程度である。それを踏まえ、4年生で5%、5年生で40%、6年生で5%は海外に行くことを旨す。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	30%	30%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 現在30%程度の比率であるが、100%を旨す。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	16人
	SGH対象生徒以外:	0人	2人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 現在1%程度であるが、4年生で2%、5・6年生で4%を旨す。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	75%
	SGH対象生徒以外:	30%	30%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 全ての生徒が、英検準2級レベルを5年次までに取得し、英検2級以上レベルを卒業までに旨す。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		37%	25%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 現在平均すると30%程度であるが、80%を目指す。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 現在0人であるが、5人を目指す。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 4年次に各コースに分かれて課題研究を実施することにより、100%の生徒に影響を与えることを目指す。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	128人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大学在学中の短期留学を含め80%の生徒が留学、海外研修に行くことを目指す。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	57人
目標設定の考え方:SGアクションにおける海外フィールドワーク参加者初年度17人、翌年より海外研修を兼ねる修学旅行40人								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	320人
目標設定の考え方:4年次に国内の研修参加人数160人(全員)、5・6年次に各80人(50%)を目指す。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方:初年度は、ハワイ・シンガポール・台湾の大学及び高校(各国2校)								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	5人	9人	人	人	人	人	人	129人
目標設定の考え方:SGⅠ・Ⅱ 大学教員12人×5回、大学生10人×4回、FW 台湾4人×1回、シンガポール4人×1回、隠岐4人×1回、長崎4人×1回、SGⅢ 12人×1回								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	5人	8人	人	人	人	人	人	64人
目標設定の考え方:SGⅠ・Ⅱ 企業関係者 4人×5回、行政関係者 5人×5回、FW 企業関係者4人×2回、行政関係者1人×1回、国際機関関係者1人×1回、SGⅡ 企業関係者4人×1回 行政関係者 5人×1回								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	24人
目標設定の考え方:農業・水産業、海外市場への展開についての研究発表を個人、グループ、団体と発展させ、全体の5%を目指す。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	13人	2人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方:ハワイ姉妹校との交流を中心に、受入れ人数20人を目指す。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	回	回	回	回	回	回	20回
目標設定の考え方:成果発表(4回)、愛媛県高教研各教科(9教科)部会、県教育課程研究集会、愛媛スーパーハイスクールコンソーシアム、グローバルミーティング、校内ステージ発表(初年度予定17回)								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている	△一部整備されている	×整備されていない					○
目標設定の考え方:現在、国際交流推進室のホームページを英語で作成しているものを、3年後を目途に完全整備を目指す。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	472	471	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							